ワクワク箱根温泉
第８回
「木賀温泉」

菊川城司
（神奈川県温泉地学研究所）

写真１　国道 138 号線と早川沿いの新緑。秋には美しい紅葉が見られます。

■はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズでご紹介する８回目です。今回は、箱根二十湯のうち、木賀温泉のおはなしです。

木賀温泉は、国道 138 号線の八千代橋と宮城野橋の間に位置する静かな佇まいの温泉場で、江戸時代には箱根七湯の一つにも数えられていました。早川沿いの木々が見せる初夏の新緑や秋の紅葉が美しい温泉場です。（図 1、写真 1）

木賀温泉の源泉は、神奈川県の管理する温泉台帳では「宮城野第○○号」と番号がふられています。台帳番号に「宮城野」とつくのは、温泉台帳が整備された昭和５年当時の行政区画で宮城野村に該当する地域の源泉です。現在の行政区画では、木賀以外に強羅、二ノ平、宮城野が旧宮城野村に該当します。

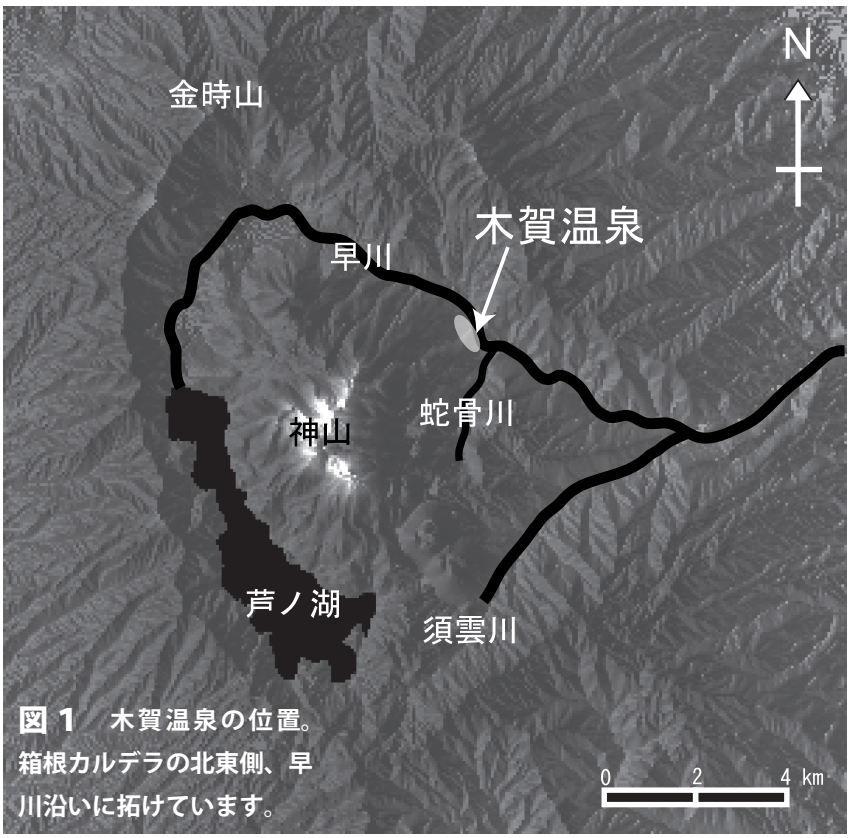

図１　木賀温泉の位置。箱根カルデラの北東側、早川沿いに拓けています。

■木賀温泉の歴史

木賀温泉は 1180（治承 4）年頃に発見されたと伝えられています。江戸時代に編纂された「箱根七湯の枝折」には、「源頼朝の家臣に木賀善司吉成という人がおり、病気にかかった時に現れた老僧に導かれて岩間から湧き出す温泉を訪れ、温泉療養の結果、病気が完治した」と書かれています。また、木賀善司吉成の夢に白狐が現れて温泉に導いたという伝承も残されています。

江戸時代の木賀温泉は、1644（正保元）年ころから将軍への献上湯として利用されていました。徳川家光や徳川綱吉の時代に献上されたという記録が残っています。献上湯は、箱根七湯の良い宣伝にもなったのではないでしょうか。

江戸時代に木賀温泉を訪れた湯治客はどこから来ていたのでしょう。それを知る資料として 1719（享保 4）年に木賀温泉の亀屋を訪れた湯治客の国許を記した資料「享保四年寅ノ正月・湯入衆国元所并湯代請取之元帳」があります。そこには江戸 14 名、郡内３名、三嶋２名、御厨

2名、上大井2名、上総2名、下総2名などと記されており、湯治客の多くが江戸から来ていたことがうかがえます。

「箱根七湯の枝折」によれば1811（文化8）年頃の木賀温泉では、上ノ湯、大滝湯、菖蒲湯、岩ノ湯が湧出しており、宿は柏屋、亀屋、仙石屋の3軒があったようです。上ノ湯は将軍への献上湯、大滝湯、菖蒲湯は木賀善司が入湯したお湯と書かれています。温泉の感覚は「温湯にして味気鹹し又酸味」とされ、温泉の効験（効能）については源泉毎に書かれており、上ノ湯は「気血不順、気虚、久咳、脚気」など、大滝湯は「欝症、上気、頭痛、疝気」など、菖蒲湯は「滞下、崩漏、痔疾、腰痛」など、岩ノ湯は「手脚不仁、しびれ、中寒、中風」などが記されています。「箱根七湯の枝折」の中で、このように源泉毎に異なる効験が書かれている温泉場は木賀温泉だけです。

写真2　ベルツの別荘が建てられていた付近。2本の源泉があり、温泉が湧出している場所です。

写真3　現在の須沢に架かる橋。木賀温泉を横切って早川に注ぎます。

写真4　現在の須沢と早川の合流地点。須沢は早雲山を源流としており、地崩れなどで過去に大きな被害をもたらしました。

明治時代には、日本の「温泉医学の父」とも呼ばれるベルツ博士の別荘があり（写真2）、フランスから陸軍教官として来日したルボン将軍が大変気に入っていたことも知られています。しかし、1892（明治25）年の大火事や1907（明治40）年の早雲山地滑りなどにより大きな被害を受けて温泉場は衰退してしまいました（写真3、4、5、6）。

■木賀温泉の現状

木賀温泉では、現在の箱根では数少ない温泉が自噴するエリアの一つです。自然湧泉や自噴井のほかに、ポンプによる揚湯も行われています。

「箱根七湯の枝折」に書かれている上ノ湯、大滝湯、岩ノ湯などは現

写真５　明治時代の木賀温泉。（嶋有義氏提供。箱根温泉誌から引用。）

写真６　写真５付近の現在の様子。過去に栄えたような賑やかさはありません。

在でも温泉が湧出していますが、長期的に見ると、年々温度や成分の低下が見られます。

2015（平成 27）年３月末現在、箱根温泉の源泉は全部で 341 ヶ所ですが、木賀温泉にはその約４%にあたる 15 源泉があります（図２）。木賀温泉にある宿泊施設は２軒、公衆浴場は１軒です。利用できる施設は少ないものの、国道 138 号線に沿って早川が流れるエリア（江戸時代に柏屋、亀屋、仙石屋があった付近）は、自然も豊かで、晩秋に

図２　木賀温泉の源泉分布。2011（平成 23）年現在。緑色の丸印は揚湯している温泉、燈色の丸印は自然湧泉や自噴井を表しています。

表１　木賀温泉の平均値。2007（平成 19）～ 2008（平成 20）年の調査による 13 源泉の平均値です。

項目	平均値
温度（℃）	49.3
揚湯量（L/min）	59.
pH	7.9
電気伝導度（μS／cm）	1239.
ﾅﾄﾘｳﾑｲｵﾝ（mg/L）	209.
ｶﾙｼｳﾑｲｵﾝ（mg/L）	34.6
塩化物ｲｵﾝ（mg/L）	268.
硫酸ｲｵﾝ（mg/L）	99.9
炭酸水素ｲｵﾝ（mg/L）	138.
ﾒﾀｹｲ酸（mg/L）	147.
ﾒﾀﾎｳ酸（mg/L）	11.9
成分総計（mg/L）	930.

写真７　木賀温泉での自噴井の観測風景。鉄分を含むために赤茶色の析出物が認められます。

は箱根で 1，2 を争うような美しい紅葉が楽しめます。

2007(平 成 19) 〜 2008(平 成 20) 年に木賀温泉の 13 源泉で行われた調査結果の平均値では、温度は 49.3℃、揚湯量（湧泉は湧出量）は 1 分間に 59 リットル、pH は 7.9 でした（表 1、写真 7）。

木賀温泉は、堂ヶ島温泉などと同様に、動力装置によって深い井戸から揚湯されているものは箱根火山の基盤岩中から汲み上げられている温泉で、自然湧泉など深度の浅いものは箱根火山の溶岩の亀裂中から湧出している温泉です。

■木賀温泉の泉質

木賀温泉では、ナトリウム－塩化物泉と単純温泉が湧出しています。温泉に溶けている成分の総計は 600 〜 2000mg/kg 程度です。温度が 50℃を超える源泉では、溶けている成分重量の 60 〜 80％を塩化ナトリウム（食塩）が占めていますが、温度が 50℃未満の源泉では、塩化ナトリウムの割合は 30 〜 50％程度となり、炭酸水素ナトリウム（重曹）の割合も同程度となっています。このように、塩化ナトリウムの割合が異なるのは、箱根火山の地下から上昇してくる熱水の影響の大小を表していると考えられています。

今回は、木賀温泉について簡単に紹介しました。次回は、小涌谷温泉について紹介します。お楽しみに。